

# 人文学部卒業研究

題 目

ネパール人留学生の事情2018

---

指導教授

都築 耕生

印

---

提出年月日

2018年 12月 18日

---

学籍番号

HI15018

---

氏 名

金山 茉由

---

## ネパール人留学生の事情 2018

HI15018

金山 茉由

### 要旨

日本にいるネパール人留学生について調査した。数年前に比べ、コンビニや居酒屋等のスタッフにネパール人の率が増えたと感じるからだ。私のアルバイト先でも、ネパール人留学生が沢山働いている。そんなネパール人留学生達と関わりが深くなると数々の疑問を持つようになった。私が思う留学のイメージと彼らの留學生活の様子が違ったからである。ネパール人留学生にインタビューした結果、様々な問題があることが分かった。

1つ目は留学の目的である。私のアルバイト先のネパール人は、勉強よりもアルバイト優先そんな感じがする。多くのネパール人は、留學費用を稼ぐ為に、昼夜問わずに長時間働いている。留學の最終的目的地は異なっているけれども、とにかくアルバイトは留學生活において欠かせない存在になっている事が分かった。

2つ目は「28時間の壁問題」だ。留學生が働いてと良いとされる時間は、入管法で1週間に28時間以内と決められているが、実際に守っている人はほとんどいないということだ。留學生のほとんどが授業料を自分自身で支払っている。そして、週28時間の労働では、日本で暮らすに収入が足りないのだ。

3つ目は「留學前」と「留學後」では留學生の接する日本の情報に大きなギャップがあることだ。ネパールの現地コーディネーターは、日本で働きさえすればすぐに金持ちになるような話で留學を斡旋している。また、大抵のネパール人留學生は、日本はどこへ行っても同じだと思って、地域の賃金格差があったり、仕事を探すにも地域差があったりする現実も知らない。

4つ目は、ネパール人留學生を始めとした外国人留學生を雇う環境が準備されていない事だ。ネパール人留學生は、人手不足が深刻化する飲食店や小売店等に欠かせない存在になっている。しかし、ネパール人留學生を雇う側は、ネパールと日本の文化のギャップがあり十分なコミュニケーションが取れず苦しんでいる。

### キーワード

ネパール人留學生 留學 飲食店 人手不足 28時間の壁問題 外国人労働者

1. はじめに .....	1
2. 外国人留学生の事情 .....	2
2.1 増える外国人留学生 .....	2
2.2 人手不足問題 .....	2
2.3 注目される「外国人就労者」 .....	3
2.4 「週 28 時間以内の壁問題」 .....	5
2.5 研究方法について .....	5
3. ネパール人留学生のインタビュー .....	6
3.1.1 料理の専門学校を出て就労ビザ取得へ Magod Raju さん 男性 19 歳 .....	6
3.1.2 オーストラリアに行けず渋々日本へ Saokota Anis さん 男性 24 歳 .....	8
3.1.3 将来はネパールでホテルを建てたい Raian ita さん 23 歳 女性 .....	10
3.1.4 日本語が話せず苦勞 Kanded Sunita さん 22 歳 女性 .....	12
3.1.5 ネパールに念願の一時帰国 Pauded Krishna さん 25 歳 男性 .....	13
3.1.6 来年の 4 月から IT 専門学校に進学 Dahal Bishwo さん 23 歳 男性 .....	15
3.2 ネパール人の採用する側へのインタビュー .....	17
3.2.1 伊藤 彰宏さん 26 歳 男性 .....	17
3.3 ネパール人が語る留学生の裏側 .....	19
3.3.1 在日 14 年目 Ramesh さん 34 歳 男性 .....	20
4. インタビュー結果の考察 .....	22
4.1 形骸化した 28 時間の規則 .....	22
4.2 正しい情報の発信が重要 .....	24
4.3 アルバイト現場での双方の悩み .....	25
5. おわりに .....	26
参考文献 .....	26
参考サイト .....	27